

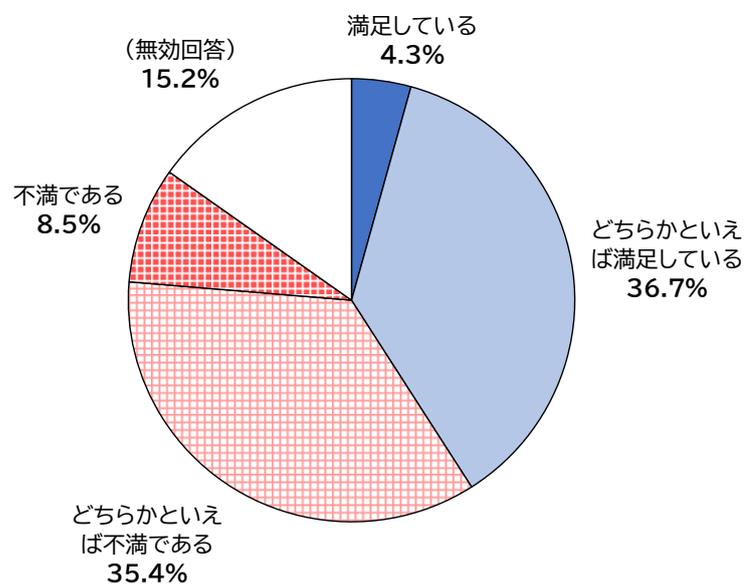
2 「市政への満足度」、「日ごろの意識や行動」について

(1) 青少年の健全育成について

問 26 あなたは、ひきこもりや無業、生活上の悩みなど、社会生活を営むうえで困難を抱える子ども・若者への施策や支援に満足していますか。

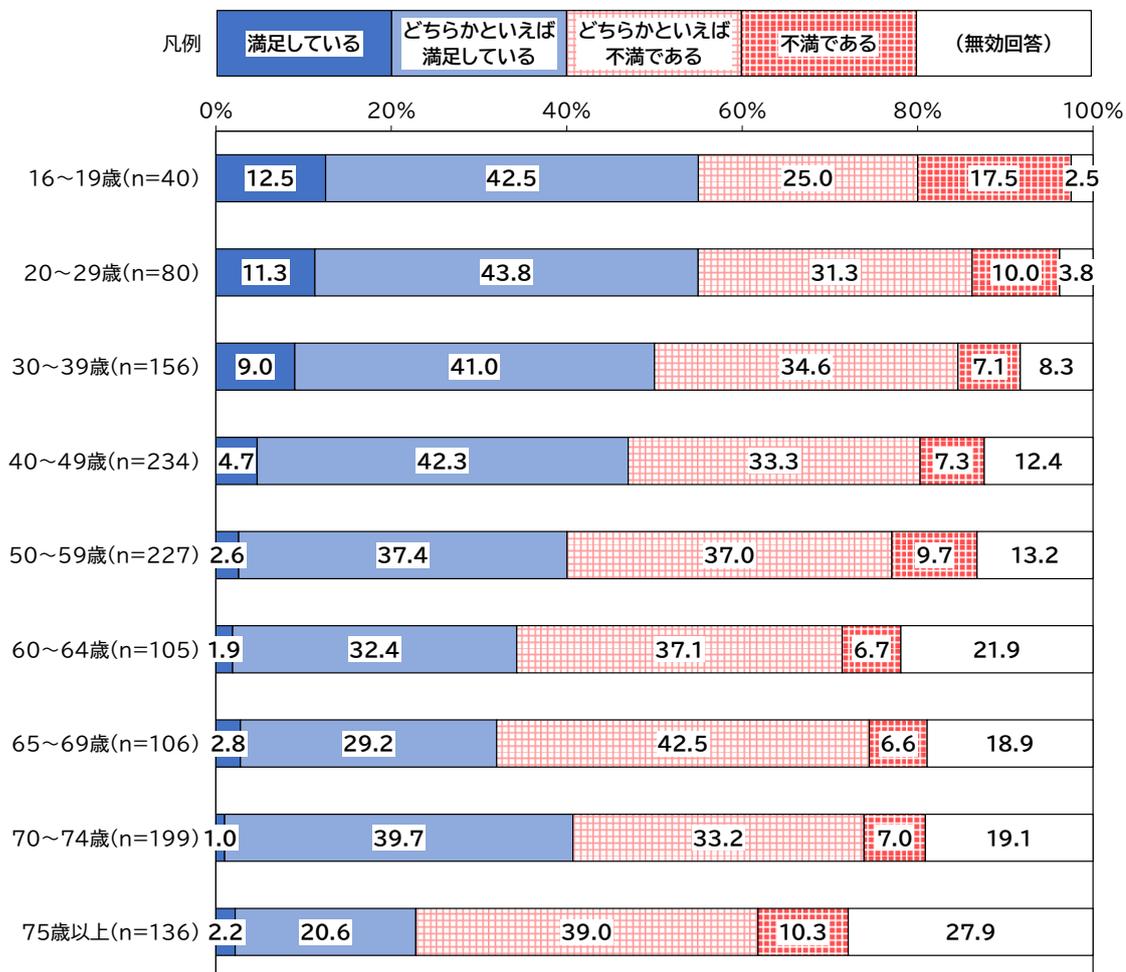
<全体 (n=1,286) >

- 「どちらかといえば満足している」が 36.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満である」の 35.4%の順となっています。
- 「どちらかといえば不満である」と「不満である」の合計は 43.9%で、「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計 41.0%を若干上回っています。



<年齢層別>

○「満足している」と「どちらかといえば満足している」の回答比率の合計は、年齢層が上がるほど低下し、50～59歳で「どちらかといえば不満である」と「不満である」の回答比率の合計が、「満足している」と「どちらかといえば満足している」の回答比率の合計を上回ります。更にこの差は年齢が上がるほど拡大する傾向にあります。

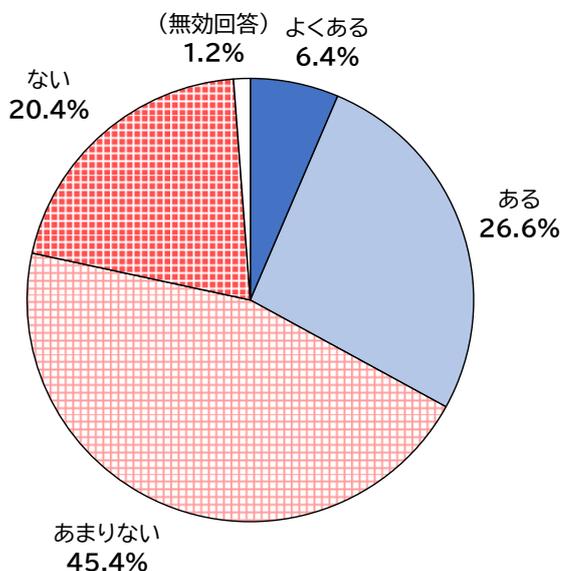


(2) 地域コミュニティについて

問 27 あなたは、地域のコミュニティ活動を目にする機会がありますか。

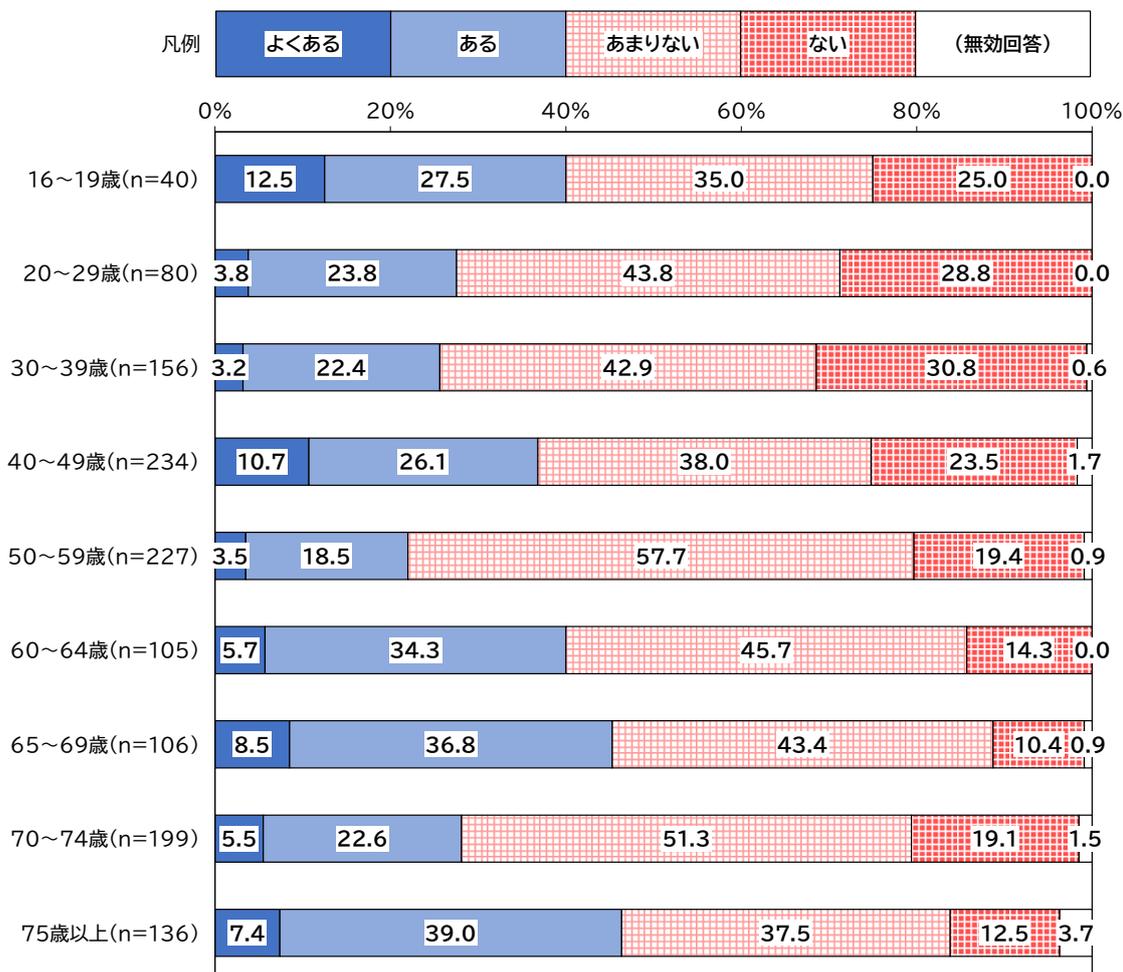
<全体 (n=1,286) >

- 「あまりない」が45.4%と最も高く、次いで「ある」の26.6%の順となっています。
- 「あまりない」と「ない」の合計は65.8%で、「よくある」と「ある」の合計33.0%を大きく上回っています。



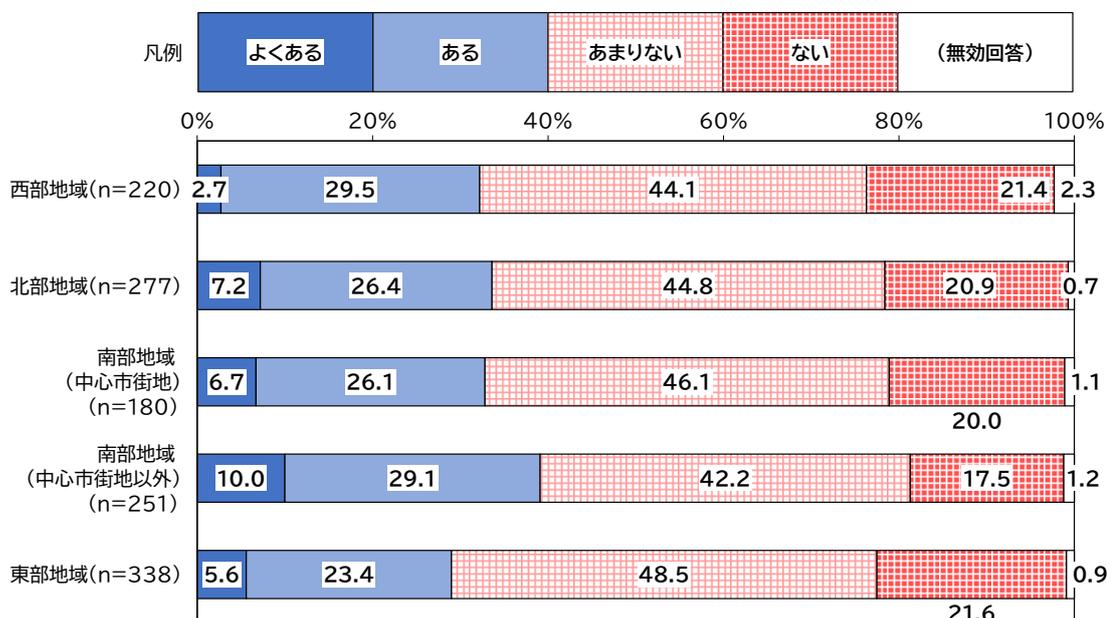
<年齢層別>

- 全ての年齢層で「あまりない」と「ない」の合計は、「よくある」と「ある」の合計を上回っており、特に20～39歳、50～59歳及び70～74歳では、7割を超えています。



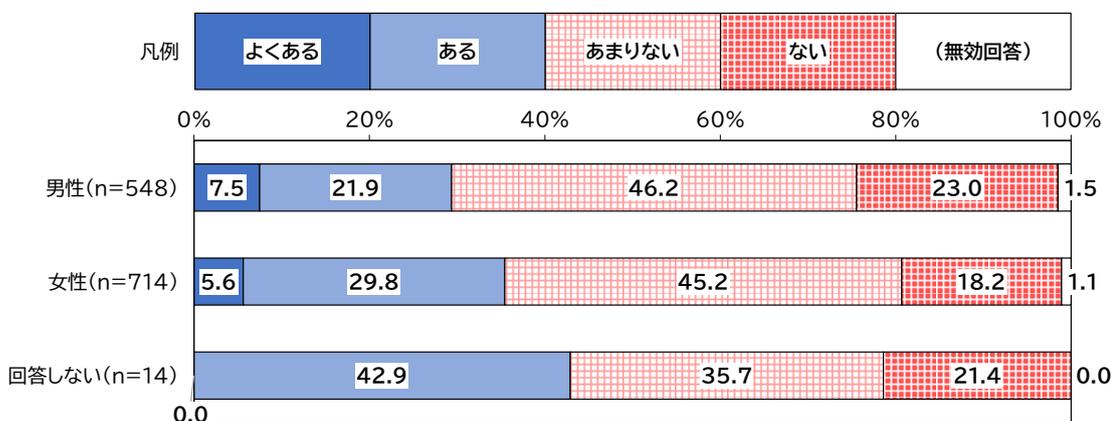
<地域別>

○全ての地域で「あまりない」と「ない」の合計が、「よくある」と「ある」の合計を上回っており、特に東部地域では、7割を超えています。



<性別>

○男女ともに「あまりない」が最も多く、「あまりない」と「ない」の合計は男性が約7割、女性が約6割となっており、「よくある」と「ある」の回答比率の合計は、男性と比較して女性がやや高くなっています。

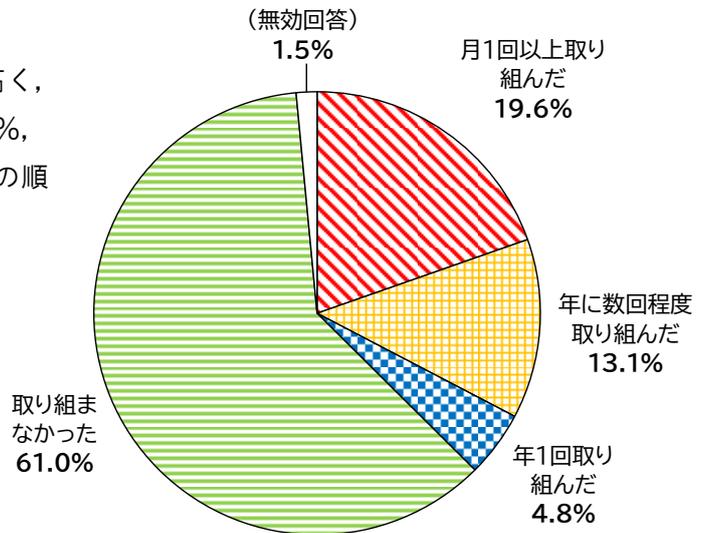


(3) 生涯学習について

問 28 この1年間の間に、生涯学習に取り組みましたか。

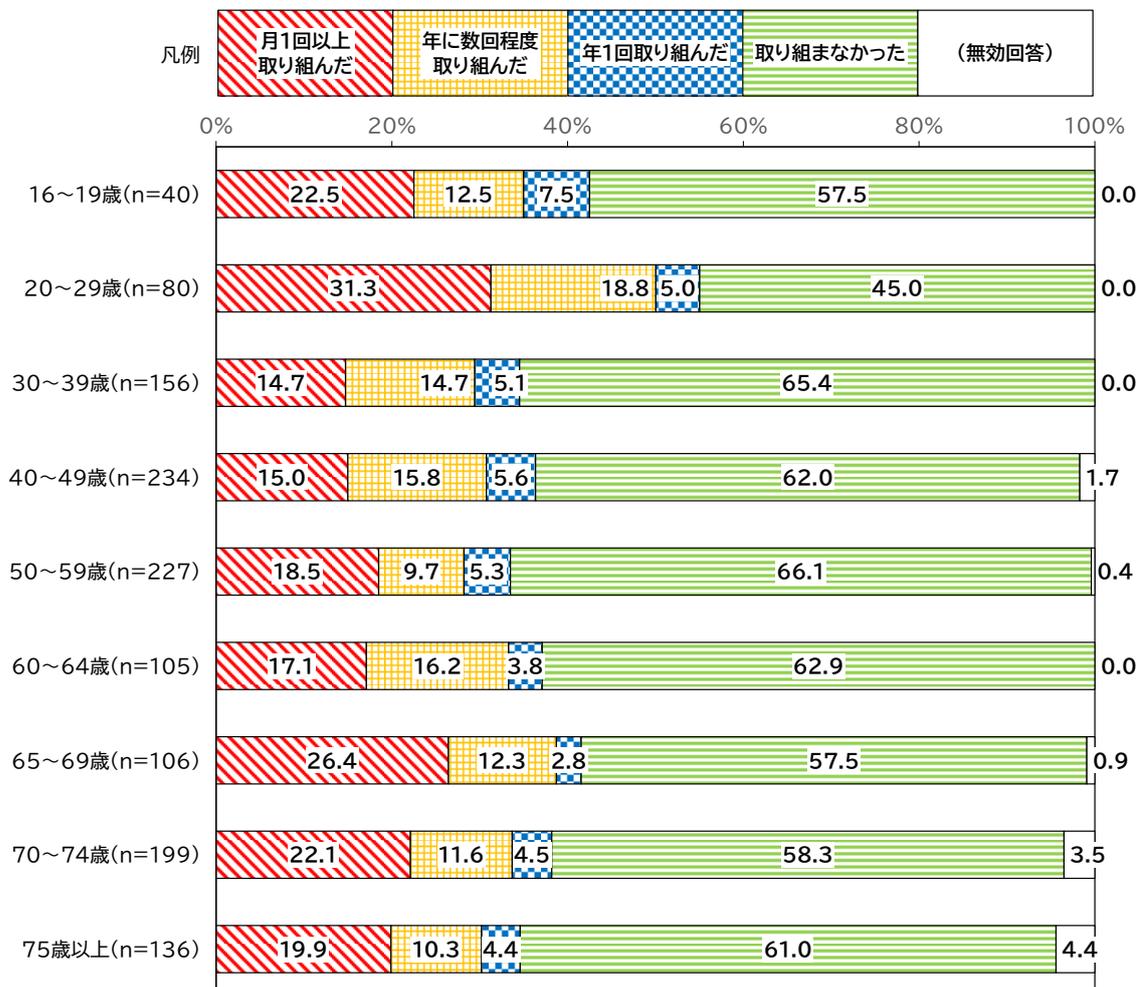
<全体 (n=1, 286) >

○「取り組まなかった」が61.0%と最も高く、次いで「月1回以上取り組んだ」の19.6%、「年に数回程度取り組んだ」の13.1%の順となっています。



<年齢層別>

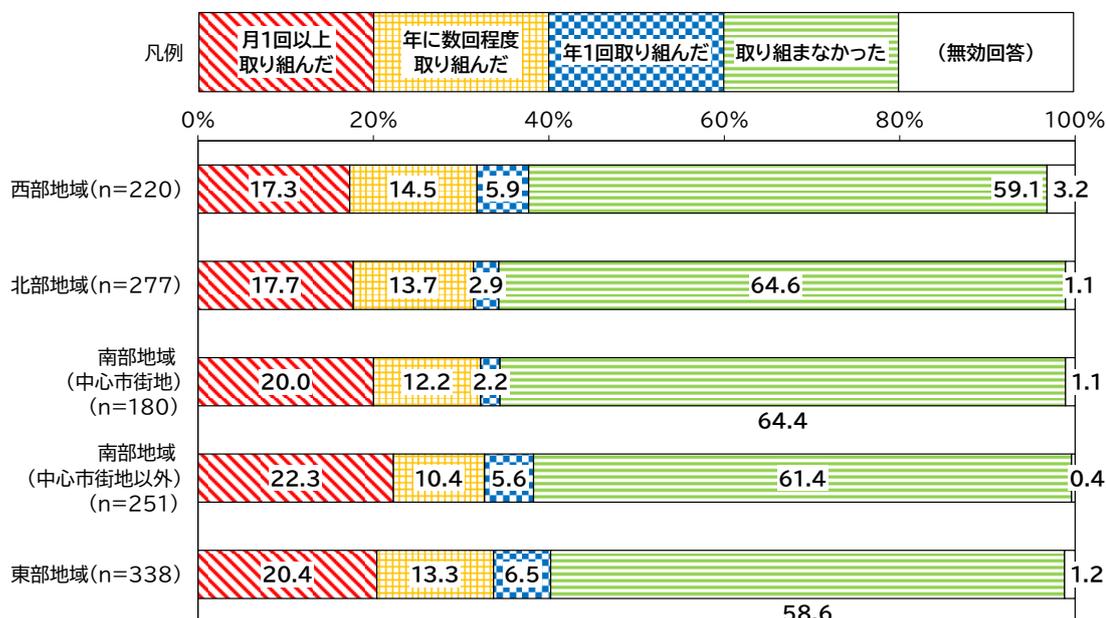
○全ての年齢層で「取り組まなかった」が最も高く、特に30～39歳、50～59歳などで他の年齢層と比較して回答比率が高くなっています。また「月1回以上取り組んだ」は、16～29歳、65～74歳で2割を超えており、他の年齢層と比較して回答比率が高くなっています。



<地域別>

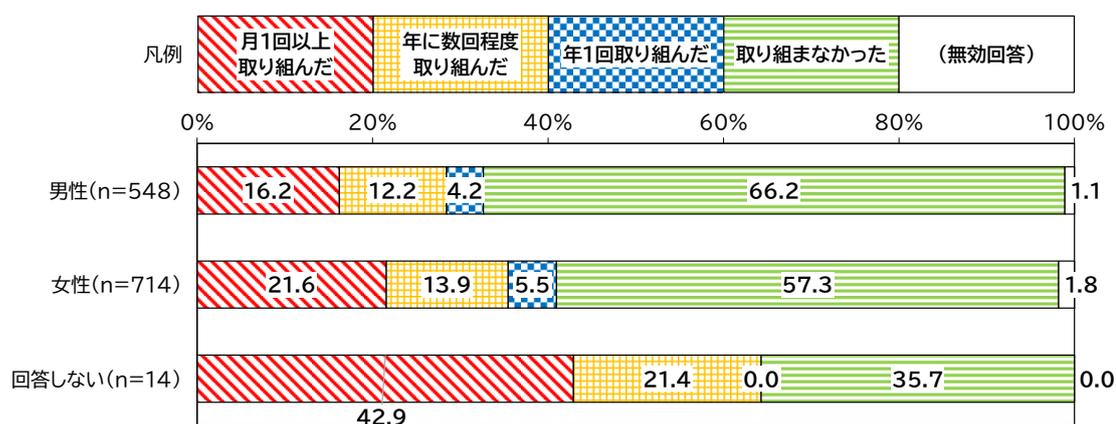
○全ての地域で「取り組まなかった」が最も高くなっています。

南部地域，東部地域は「月1回以上取り組んだ」の比率が20%を超えています。



<性別>

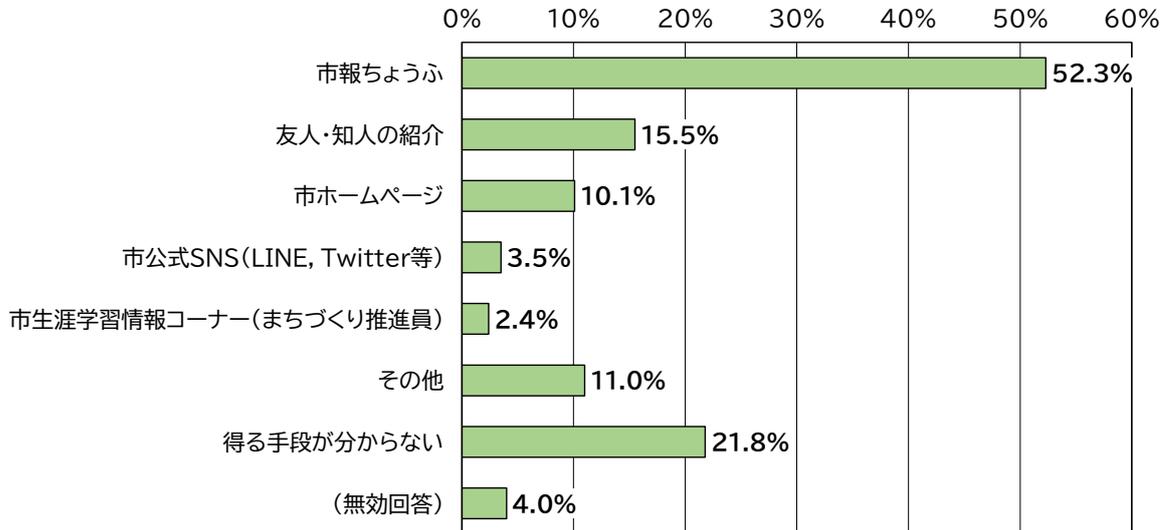
○男女ともに「取り組まなかった」が最も高く、「月1回以上取り組んだ」が次いでいます。「年に数回程度取り組んだ」や「年1回取り組んだ」など、取り組んだことがあると回答した比率は、いずれも男性より女性が高くなっています。



問 29 あなたは、生涯学習に関する情報を何から入手していますか。(あてはまるもの全て)

<全体 (n=1,286) >

○「市報ちょうふ」が52.3%と最も高く、次いで「友人・知人の紹介」の15.5%、「市ホームページ」の10.1%の順となっていますが、「得る手段が分からない」も21.8%に達しています。



<年齢層別>

○30歳以上では「市報ちょうふ」が最も高く、16～29歳では「得る手段が分からない」が最も高くなっています。また、60歳以上では、「友人・知人の紹介」が「市報ちょうふ」に次いで高くなっています。

	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,286	40	80	156	234	227	105	106	199	136
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市報ちょうふ	672	6	20	63	103	118	70	67	130	94
	52.3%	15.0%	25.0%	40.4%	44.0%	52.0%	66.7%	63.2%	65.3%	69.1%
市ホームページ	130	5	8	15	22	18	15	13	21	13
	10.1%	12.5%	10.0%	9.6%	9.4%	7.9%	14.3%	12.3%	10.6%	9.6%
市公式SNS (LINE, Twitter等)	45	2	7	12	7	8	1	1	5	2
	3.5%	5.0%	8.8%	7.7%	3.0%	3.5%	1.0%	0.9%	2.5%	1.5%
友人・知人の紹介	199	4	15	16	34	29	20	19	30	31
	15.5%	10.0%	18.8%	10.3%	14.5%	12.8%	19.0%	17.9%	15.1%	22.8%
市生涯学習情報コーナー(まちづくり推進員)	31	1	0	0	2	2	3	4	8	11
	2.4%	2.5%	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%	2.9%	3.8%	4.0%	8.1%
その他	142	3	9	20	33	36	8	9	16	8
	11.0%	7.5%	11.3%	12.8%	14.1%	15.9%	7.6%	8.5%	8.0%	5.9%
得る手段が分からない	280	21	29	46	65	45	19	11	30	13
	21.8%	52.5%	36.3%	29.5%	27.8%	19.8%	18.1%	10.4%	15.1%	9.6%
(無効回答)	52	0	0	5	15	5	2	7	7	11
	4.0%	0.0%	0.0%	3.2%	6.4%	2.2%	1.9%	6.6%	3.5%	8.1%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：

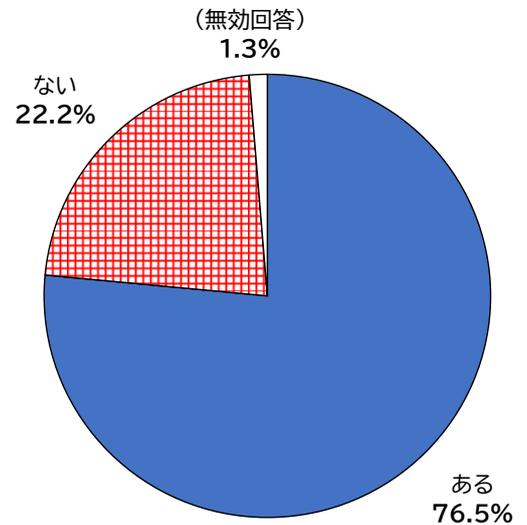


(4) 平和について

問 30 あなたは、最近1年の間に、身近な人と戦争や平和について話し合ったり、戦争中の話を聞いたりしたことがありますか。

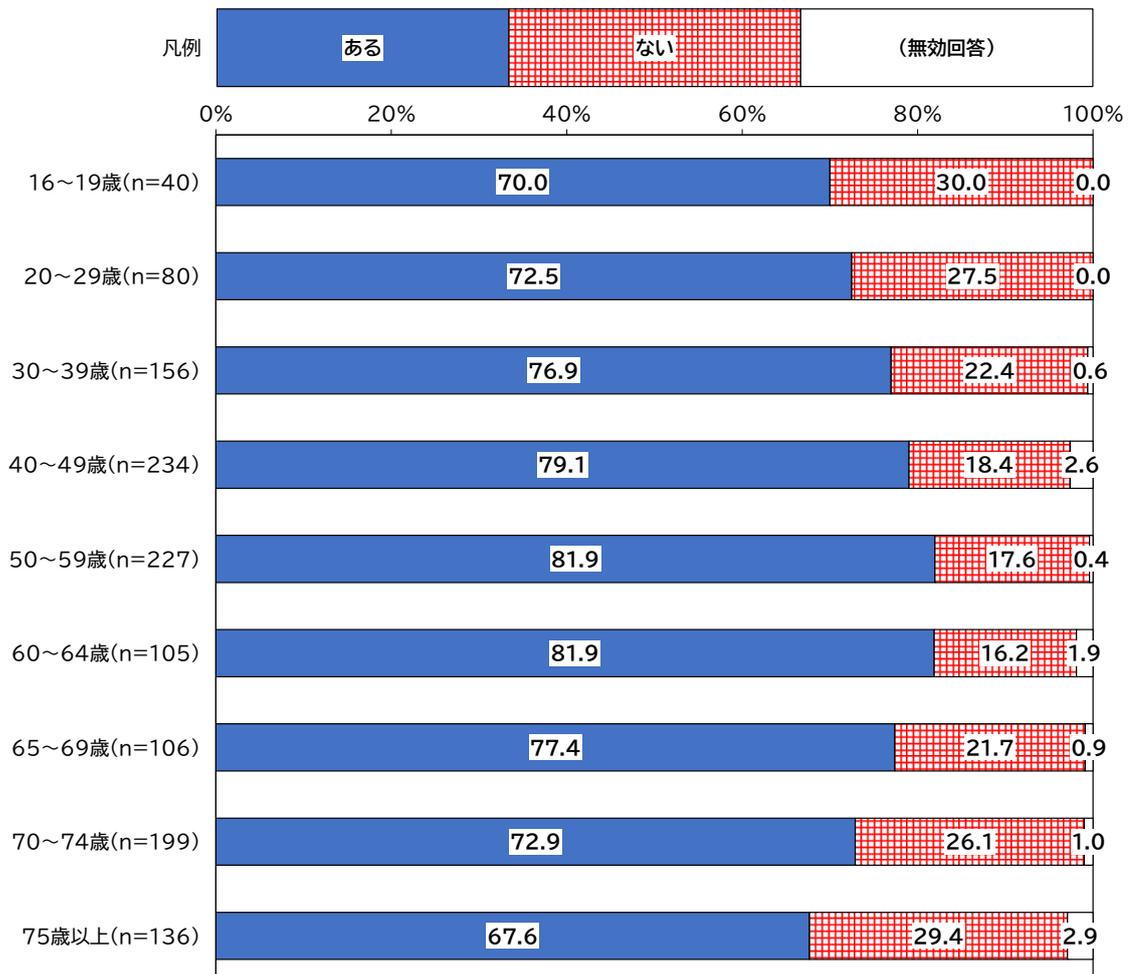
<全体 (n=1,286) >

○「ある」が76.5%で、「ない」の22.2%を大きく上回っています。



<年齢別>

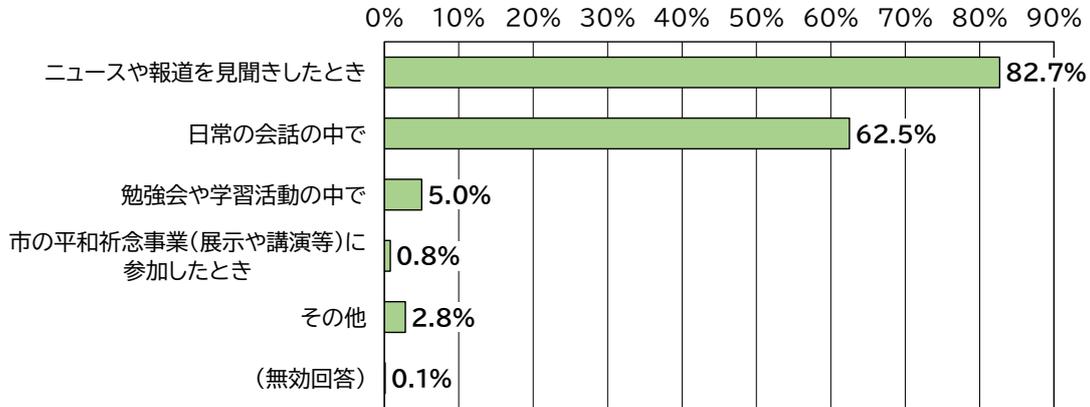
○全ての年齢層で「ある」が「ない」を大きく上回っており、特に50~64歳で8割を超えています。



問 30-1 それはどんな時ですか。(あてはまるもの全て)

<全体 (n=1,286) >

○「ニュースや報道を見聞きしたとき」が 82.7%と最も高く、次いで「日常の会話の中で」の 62.5%、「勉強会や学習活動の中で」の 5.0%の順となっています。



<年齢層別>

○全ての年齢層で「ニュースや報道を見聞きしたとき」が最も高く、「日常の会話の中で」が次いでいます。

	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	984	28	58	120	185	186	86	82	145	92
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
日常の会話の中で	615	16	30	69	111	116	55	52	97	68
	62.5%	57.1%	51.7%	57.5%	60.0%	62.4%	64.0%	63.4%	66.9%	73.9%
ニュースや報道を見聞きしたとき	814	21	53	96	151	153	70	69	120	80
	82.7%	75.0%	91.4%	80.0%	81.6%	82.3%	81.4%	84.1%	82.8%	87.0%
勉強会や学習活動の中で	49	9	5	3	10	3	3	3	7	6
	5.0%	32.1%	8.6%	2.5%	5.4%	1.6%	3.5%	3.7%	4.8%	6.5%
市の平和祈念事業(展示や講演等)に参加したとき	8	0	0	1	0	0	2	0	3	2
	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	2.1%	2.2%
その他	28	2	2	1	8	4	3	1	5	1
	2.8%	7.1%	3.4%	0.8%	4.3%	2.2%	3.5%	1.2%	3.4%	1.1%
(無効回答)	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



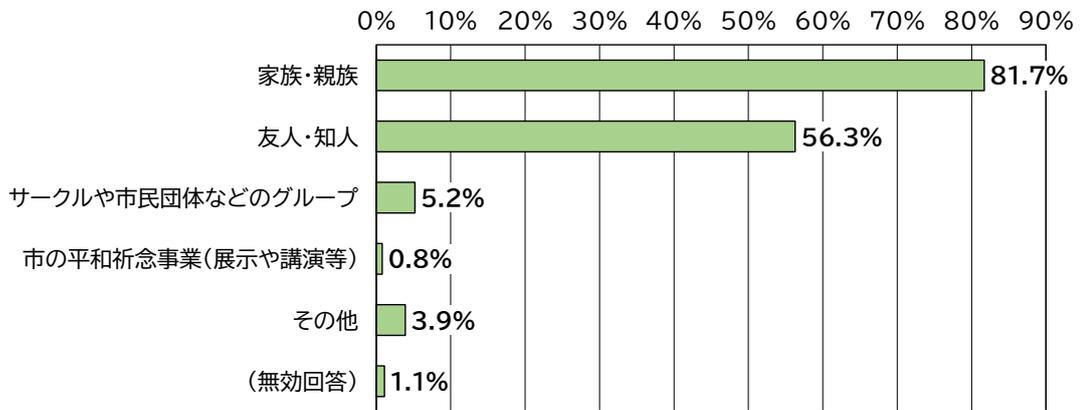
回答割合が2番目に高い：



問 30-2 それは誰と話し合ったり，誰から聞いたりしましたか。（あてはまるもの全て）

<全体（n=1,286）>

○「家族・親族」が81.7%と最も高く，次いで「友人・知人」の56.3%，「サークルや市民団体などのグループ」の5.2%の順となっています。



<年齢層別>

○全ての年齢層で「家族・親族」が最も高く，「友人・知人」が次いでいます。

	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	984	28	58	120	185	186	86	82	145	92
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
家族・親族	804	20	45	106	164	152	68	70	107	71
	81.7%	71.4%	77.6%	88.3%	88.6%	81.7%	79.1%	85.4%	73.8%	77.2%
友人・知人	554	16	35	52	84	99	48	50	100	70
	56.3%	57.1%	60.3%	43.3%	45.4%	53.2%	55.8%	61.0%	69.0%	76.1%
市の平和祈念事業（展示や講演等）	8	0	0	2	0	2	2	0	1	1
	0.8%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	1.1%	2.3%	0.0%	0.7%	1.1%
サークルや市民団体などのグループ	51	0	0	2	5	6	4	6	15	12
	5.2%	0.0%	0.0%	1.7%	2.7%	3.2%	4.7%	7.3%	10.3%	13.0%
その他	38	2	2	5	8	12	3	2	4	0
	3.9%	7.1%	3.4%	4.2%	4.3%	6.5%	3.5%	2.4%	2.8%	0.0%
(無効回答)	11	1	1	1	0	4	2	1	1	0
	1.1%	3.6%	1.7%	0.8%	0.0%	2.2%	2.3%	1.2%	0.7%	0.0%

(上段：実数（人），下段：構成比)

回答割合が最も高い：

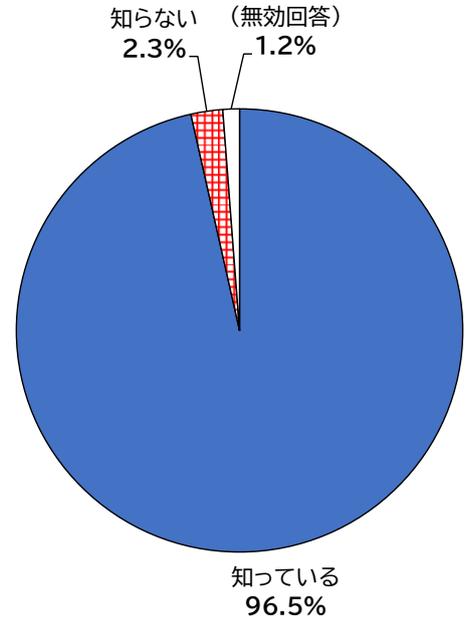
回答割合が2番目に高い：

(5) 観光について

問 31 あなたは、調布市が、名誉市民・水木しげる氏が50年以上暮らし、「ゲゲゲの鬼太郎」や「悪魔くん」など、数々の作品を生み出した「水木マンガの生まれた街」であることを知っていますか。

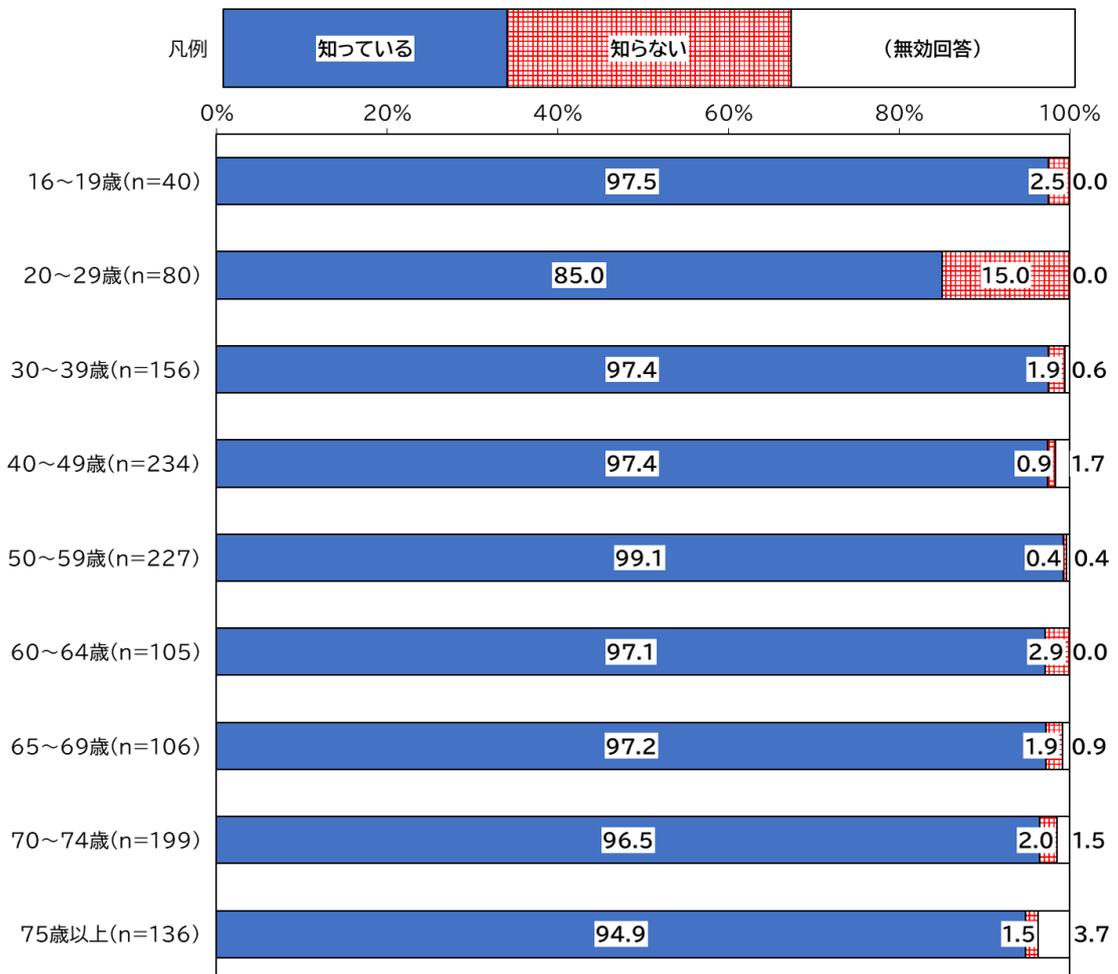
<全体 (n=1,286) >

○「知っている」が96.5%に達しており、「知らない」は2.3%にとどまっています。



<年齢層別>

○「知っている」が20～29歳で8割を、その他の年齢層で9割を超えています。

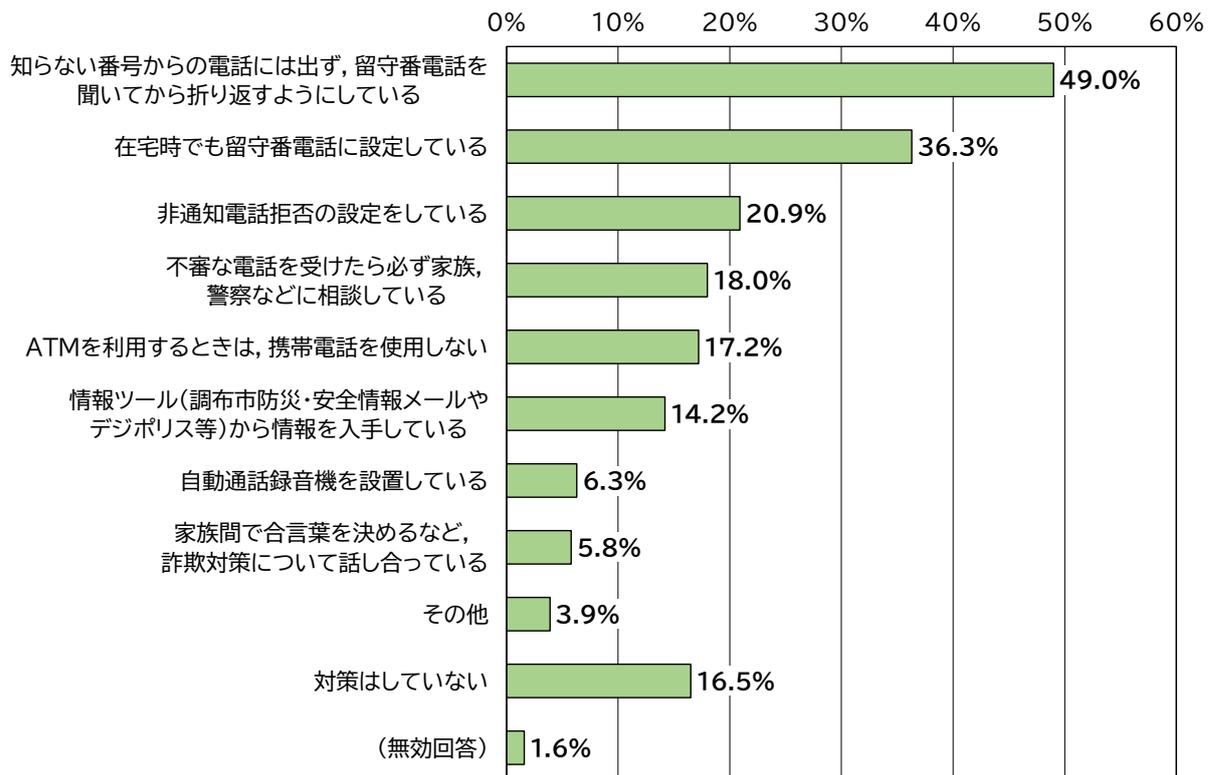


(6) 防犯について

問 32 あなたは（御家族を含む）、特殊詐欺被害等防止のためにどのような対策をしていますか。（あてはまるもの全て）

<全体（n=1,286）>

○「知らない番号からの電話には出ず、留守番電話を聞いてから折り返すようにしている」が49.0%と最も高く、次いで「在宅時でも留守番電話に設定している」の36.3%、「非通知電話拒否の設定をしている」の20.9%の順となっています。



<年齢層別>

○50～59歳では「在宅時でも留守番電話に設定している」が、他の年齢層は「知らない番号からの電話には出ず、留守番電話を聞いてから折り返すようにしている」が最も高くなっています。また、16～19歳では「不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談している」、20～39歳では「対策はしていない」とする回答比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,286	40	80	156	234	227	105	106	199	136
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
在宅時でも留守番電話に設定している	467	11	16	12	63	111	50	52	93	59
	36.3%	27.5%	20.0%	7.7%	26.9%	48.9%	47.6%	49.1%	46.7%	43.4%
知らない番号からの電話には出ず、留守番電話を聞いてから折り返すようにしている	630	16	37	86	112	110	53	52	100	63
	49.0%	40.0%	46.3%	55.1%	47.9%	48.5%	50.5%	49.1%	50.3%	46.3%
自動通話録音機を設置している	81	2	2	3	8	11	10	9	20	16
	6.3%	5.0%	2.5%	1.9%	3.4%	4.8%	9.5%	8.5%	10.1%	11.8%
非通知電話拒否の設定をしている	269	9	12	27	53	55	18	22	51	22
	20.9%	22.5%	15.0%	17.3%	22.6%	24.2%	17.1%	20.8%	25.6%	16.2%
不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談している	231	12	15	12	24	49	20	25	34	40
	18.0%	30.0%	18.8%	7.7%	10.3%	21.6%	19.0%	23.6%	17.1%	29.4%
ATMを利用するときは、携帯電話を使用しない	221	3	11	19	20	40	25	27	48	27
	17.2%	7.5%	13.8%	12.2%	8.5%	17.6%	23.8%	25.5%	24.1%	19.9%
家族間で合言葉を決めるなど、詐欺対策について話し合っている	75	1	4	9	13	10	5	10	8	15
	5.8%	2.5%	5.0%	5.8%	5.6%	4.4%	4.8%	9.4%	4.0%	11.0%
情報ツール（調布市防災・安全情報メールやデジボリス等）から情報を入手している	183	3	4	17	36	38	17	17	29	22
	14.2%	7.5%	5.0%	10.9%	15.4%	16.7%	16.2%	16.0%	14.6%	16.2%
その他	50	0	4	6	9	7	6	6	9	3
	3.9%	0.0%	5.0%	3.8%	3.8%	3.1%	5.7%	5.7%	4.5%	2.2%
対策はしていない	212	10	19	39	50	32	10	5	28	17
	16.5%	25.0%	23.8%	25.0%	21.4%	14.1%	9.5%	4.7%	14.1%	12.5%
（無効回答）	21	0	0	1	8	1	0	2	3	6
	1.6%	0.0%	0.0%	0.6%	3.4%	0.4%	0.0%	1.9%	1.5%	4.4%

（上段：実数（人），下段：構成比）

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

<地域別>

○全ての地域で「知らない番号からの電話には出ず、留守番電話を聞いてから折り返すようにしている」が最も高く、「在宅時でも留守番電話に設定している」が次いでいます。

	合計	西部地域	北部地域	南部地域 (中心市街地)	南部地域 (中心市街地以外)	東部地域
全体	1,286	220	277	180	251	338
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
在宅時でも留守番電話に設定している	467	71	110	65	93	119
	36.3%	32.3%	39.7%	36.1%	37.1%	35.2%
知らない番号からの電話には出ず、留守番電話を聞いてから折り返すようにしている	630	96	136	87	128	172
	49.0%	43.6%	49.1%	48.3%	51.0%	50.9%
自動通話録音機を設置している	81	12	22	7	18	22
	6.3%	5.5%	7.9%	3.9%	7.2%	6.5%
非通知電話拒否の設定をしている	269	47	64	39	47	70
	20.9%	21.4%	23.1%	21.7%	18.7%	20.7%
不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談している	231	36	48	26	48	70
	18.0%	16.4%	17.3%	14.4%	19.1%	20.7%
ATMを利用するときは、携帯電話を使用しない	221	30	57	28	40	62
	17.2%	13.6%	20.6%	15.6%	15.9%	18.3%
家族間で合言葉を決めるなど、詐欺対策について話し合っている	75	11	21	10	13	18
	5.8%	5.0%	7.6%	5.6%	5.2%	5.3%
情報ツール（調布市防災・安全情報メールやデジボリス等）から情報を入手している	183	33	39	26	38	43
	14.2%	15.0%	14.1%	14.4%	15.1%	12.7%
その他	50	10	9	9	8	13
	3.9%	4.5%	3.2%	5.0%	3.2%	3.8%
対策はしていない	212	42	51	30	34	52
	16.5%	19.1%	18.4%	16.7%	13.5%	15.4%
（無効回答）	21	6	3	3	3	4
	1.6%	2.7%	1.1%	1.7%	1.2%	1.2%

（上段：実数（人），下段：構成比）

回答割合が最も高い：

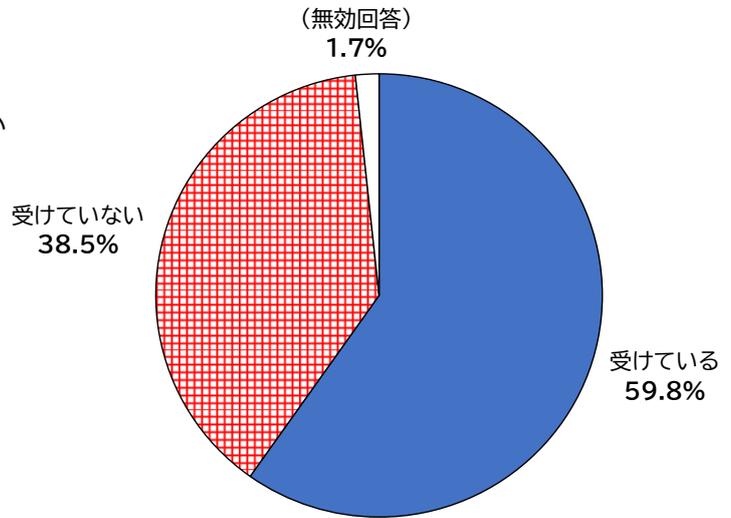
回答割合が2番目に高い：

(7) 歯と口腔の健康づくりについて

問 33 あなたは、定期的に歯科検診を受けていますか。

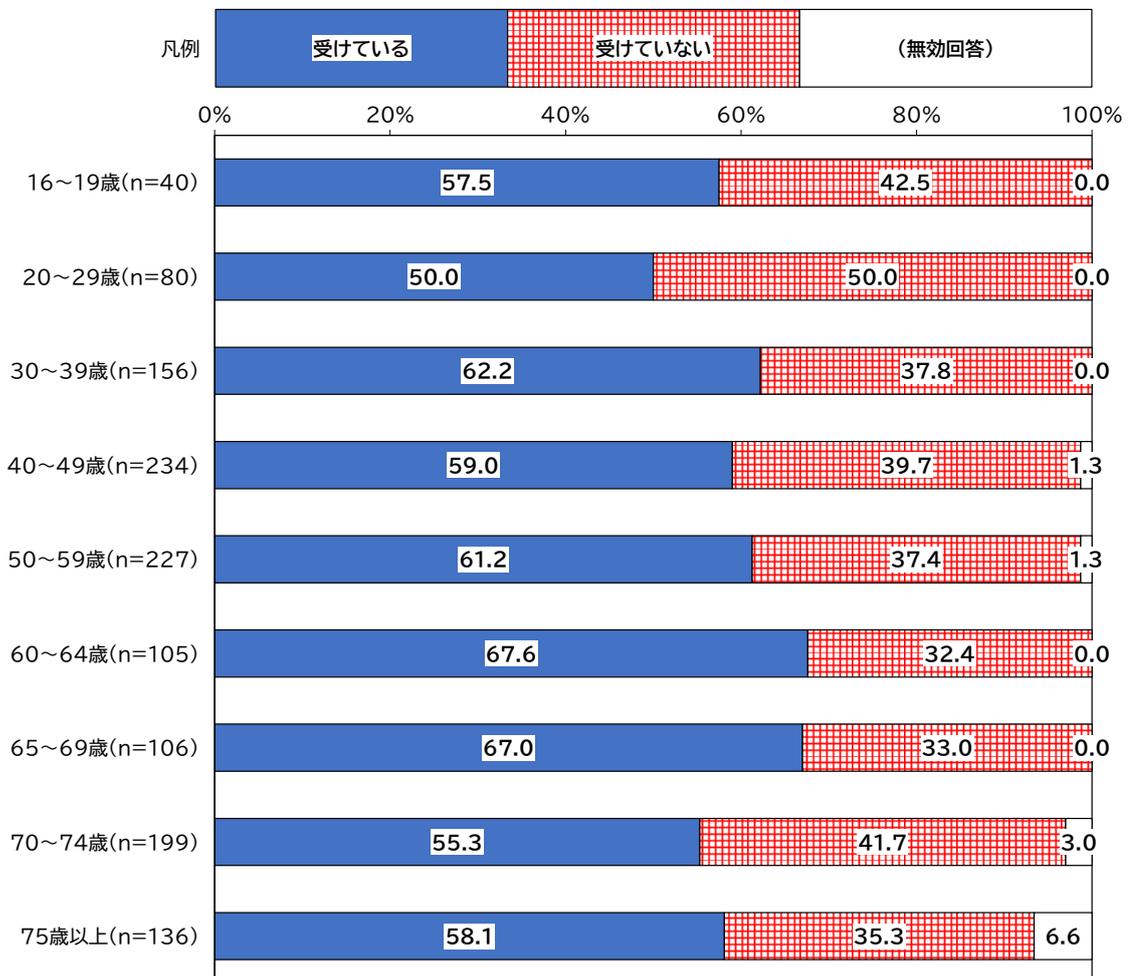
<全体 (n=1,286) >

○「受けている」が 59.8%と最も高く、「受けていない」を大きく上回っています。



<年齢層別>

○20～29歳で「受けている」と「受けていない」が同じ割合となっていますが、その他の年齢層は、「受けている」が「受けていない」を上回っており、特に60～69歳で回答比率がやや高くなっています。

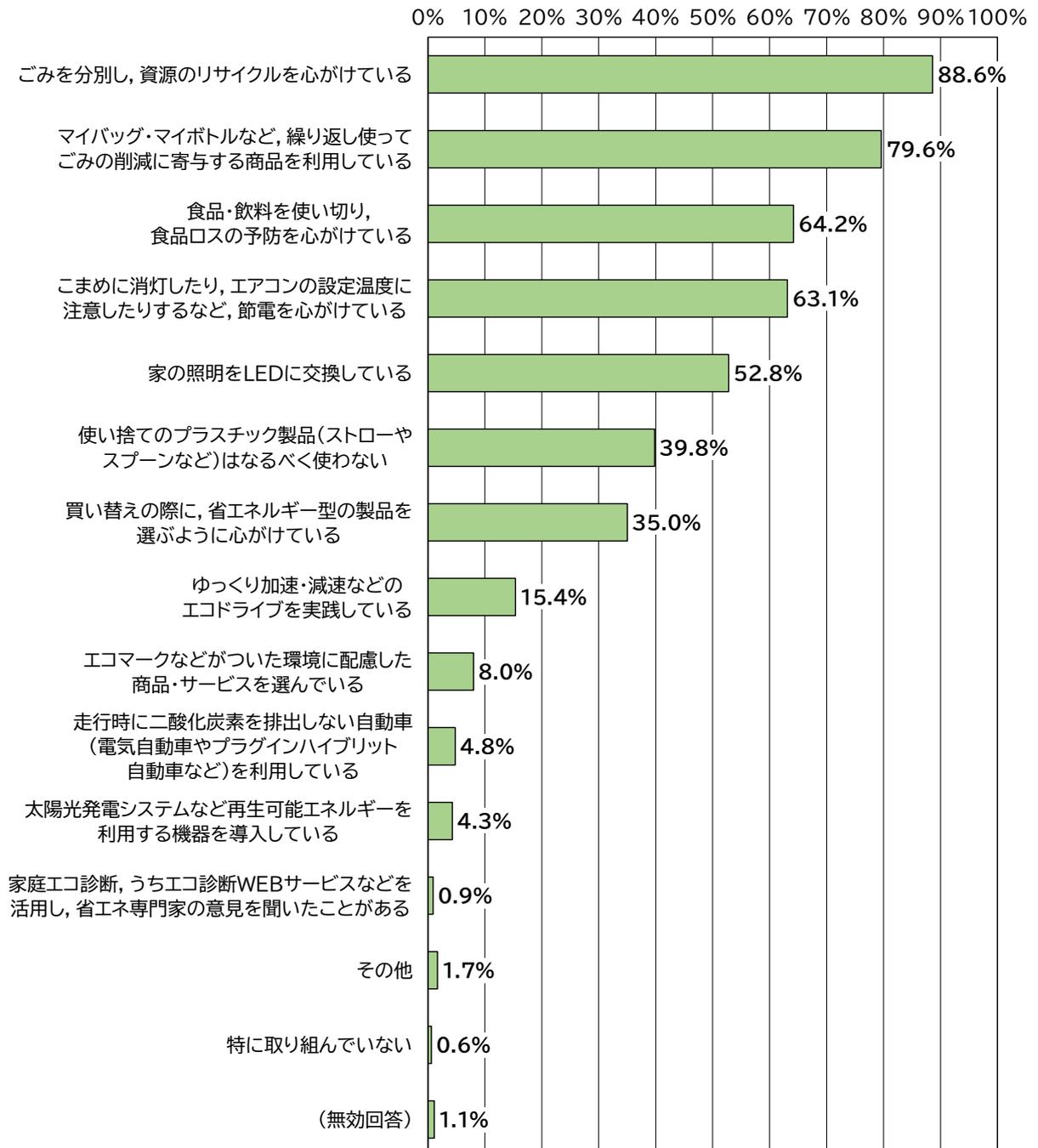


(8) 環境保全に向けた取組について

問 34 あなたは、環境を守るためにどのような取組を行っていますか。(あてはまるもの全て)

<全体 (n=1,286) >

○「ごみを分別し、資源のリサイクルを心がけている」が88.6%と最も高く、次いで「マイバッグ・マイボトルなど、繰り返し使ってごみの削減に寄与する商品を利用している」の79.6%、「食品・飲料を使い切り、食品ロスの予防を心がけている」の64.2%の順となっています。



<年齢層別>

○20～39歳では「マイバッグ・マイボトルなど、繰り返し使ってごみの削減に寄与する商品を利用している」が、その他の年齢層では「ごみを分別し、資源のリサイクルを心がけている」が最も高くなっています。

○また、60歳以上では、「エコマークなどがついた環境に配慮した商品・サービスを選んでいる」や「こまめに消灯したり、エアコンの設定温度に注意したりするなど、節電を心がけている」、「買い替えの際に、省エネルギー型の製品を選ぶように心がけている」などの回答比率が他の年齢層と比較してやや高くなっています。

	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,286	40	80	156	234	227	105	106	199	136
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
マイバッグ・マイボトルなど、繰り返し使ってごみの削減に寄与する商品を利用している	1,024	26	62	122	182	188	87	90	162	103
	79.6%	65.0%	77.5%	78.2%	77.8%	82.8%	82.9%	84.9%	81.4%	75.7%
エコマークなどがついた環境に配慮した商品・サービスを選んでいる	103	2	2	8	14	16	8	9	23	21
	8.0%	5.0%	2.5%	5.1%	6.0%	7.0%	7.6%	8.5%	11.6%	15.4%
使い捨てのプラスチック製品（ストローやスプーンなど）はなるべく使わない	512	18	14	41	78	100	49	50	95	66
	39.8%	45.0%	17.5%	26.3%	33.3%	44.1%	46.7%	47.2%	47.7%	48.5%
ごみを分別し、資源のリサイクルを心がけている	1,139	28	61	121	211	208	95	103	185	125
	88.6%	70.0%	76.3%	77.6%	90.2%	91.6%	90.5%	97.2%	93.0%	91.9%
食品・飲料を使い切り、食品ロスの予防を心がけている	825	26	42	92	142	153	74	74	134	87
	64.2%	65.0%	52.5%	59.0%	60.7%	67.4%	70.5%	69.8%	67.3%	64.0%
ゆっくり加速・減速などのエコドライブを実践している	198	0	8	19	37	55	18	22	28	10
	15.4%	0.0%	10.0%	12.2%	15.8%	24.2%	17.1%	20.8%	14.1%	7.4%
走行時に二酸化炭素を排出しない自動車（電気自動車やプラグインハイブリット自動車など）を利用している	62	1	0	4	11	18	12	8	6	2
	4.8%	2.5%	0.0%	2.6%	4.7%	7.9%	11.4%	7.5%	3.0%	1.5%
こまめに消灯したり、エアコンの設定温度に注意したりするなど、節電を心がけている	812	18	36	80	138	150	74	84	137	93
	63.1%	45.0%	45.0%	51.3%	59.0%	66.1%	70.5%	79.2%	68.8%	68.4%
家の照明をLEDに交換している	679	15	33	69	115	124	64	62	114	81
	52.8%	37.5%	41.3%	44.2%	49.1%	54.6%	61.0%	58.5%	57.3%	59.6%
太陽光発電システムなど再生可能エネルギーを利用する機器を導入している	55	3	1	2	14	15	6	4	9	1
	4.3%	7.5%	1.3%	1.3%	6.0%	6.6%	5.7%	3.8%	4.5%	0.7%
買い替えの際に、省エネルギー型の製品を選ぶように心がけている	450	4	11	32	74	84	51	47	81	66
	35.0%	10.0%	13.8%	20.5%	31.6%	37.0%	48.6%	44.3%	40.7%	48.5%
家庭エコ診断、うちエコ診断WEBサービスなどを活用し、省エネ専門家の意見を聞いたことがある	11	0	0	2	0	2	2	3	0	2
	0.9%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.9%	1.9%	2.8%	0.0%	1.5%
その他	22	0	2	3	3	4	3	0	3	3
	1.7%	0.0%	2.5%	1.9%	1.3%	1.8%	2.9%	0.0%	1.5%	2.2%
特に取り組んでいない	8	1	0	3	1	1	1	0	1	0
	0.6%	2.5%	0.0%	1.9%	0.4%	0.4%	1.0%	0.0%	0.5%	0.0%
(無効回答)	14	0	0	0	3	1	1	0	5	4
	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.4%	1.0%	0.0%	2.5%	2.9%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



【参考】 調査票

調布市基本計画策定に関する 市民アンケート調査

平素より、市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

市では、「基本構想」と「基本計画」からなる「調布市総合計画」に基づき、計画的なまちづくりを推進しています。現行の総合計画の計画期間が令和4年度で終了することから、令和5年度からの8年間のまちづくりの方向性を示す新たな総合計画の策定に取り組んでいます。

現在、令和5年度からの基本構想は、「ともに生き ともに創る 彩りのまち調布」をまちの将来像として、令和4年第4回調布市議会定例会で審議中です。同時に、市では、基本構想の方針を具現化するための基本的な施策や各施策における主要な事業の概要などを示す新たな基本計画について、検討を進めています。

この調査は、新たな基本計画の検討内容などに関して、市民のみなさんの状況や意見をうかがい、今後の計画づくりに生かすことを目的として行うものです。調査に当たりますには、調布市に住民登録をしている満16歳以上の方から、約3000人の方を無作為に抽出させていただきました。

ご多忙のところお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年12月12日

調布市長 長友 貴樹

<記入に際しての注意事項など>

- **本調査は無記名**です。回答結果は統計的に処理するとともに調査目的以外には利用いたしません。
- あて名のご本人がお答えください。なお、ご本人が回答困難な場合や入院中などの場合は、ご家族や周りの方が介助いただくか、あて名のご本人の意見を聞いたうえで代わりにご記入ください。
- 回答内容は、直接この調査票に、濃い鉛筆又は黒ボールペンで記入してください。
- 回答所要時間の目安は**30分程度**です。
- お答えいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。○の数はそれぞれの設問の指定に従ってください。
- 「その他」に○印をつけた場合は、()内に具体的な答えを記入してください。
- の場合は、回答内容等を記入してください。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（**切手不要**）に入れ、

令和4年12月28日(水)まで に郵便ポストへ投函してください。

※返信用封筒に記載してある番号「511」は、郵便局の受付のための番号です。（今回の基本計画アンケート調査で使う全ての返信用封筒に統一して「511」と付番されています。）返信者が特定されることはありません。

<本調査に関する問い合わせ先> 調布市役所 行政経営部 企画経営課
TEL：042-481-7368 FAX：042-485-0741
E-mail：kikaku@city.chofu.lg.jp

本調査は、**スマートフォンからでもご回答いただけます。**
右のQRコードから、Web 回答フォームにアクセスしてご回答ください。
(<https://logoform.jp/form/tbbj/181711>)
※Web で回答いただいた場合は、本調査票の郵送は不要です。



“調布市基本計画”とは？

市が市政・まちづくりを計画的に進めるための、市の最上位の計画です。
「調布市基本計画」の具体的な内容については、
調布市ホームページ (<https://www.city.chofu.tokyo.jp>) をご覧ください。



アンケートにお答えいただく前に、新たな基本計画の検討状況についてお知らせします。

総合計画とは？

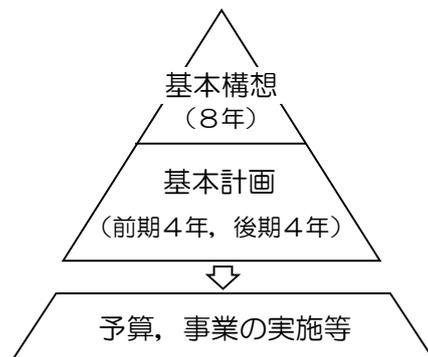
総合計画とは、市が市政・まちづくりを総合的・計画的に進めるに当たって、中心的な役割を担う計画です。

■（仮称）第6次調布市総合計画の構成

総合計画は、「基本構想」と「基本計画」によって構成します。

「**基本構想**」は、調布市が目指すべき将来都市像と、それを実現するための基本方針を示したものです。計画期間は、令和5年度を初年度とする8年間です。市議会の議決を経て策定されます。

「**基本計画**」は、基本構想の方針を具現化するための施策の体系や主要な事業の概要を示すものです。計画期間は、令和5年度を初年度とし、前期4年間、後期4年間とします。前期計画は、令和4年度末に策定する予定です。



年度	和暦 (西暦)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)	令和12 (2030)
基本構想		基本構想(8年間)							
基本計画		前期基本計画(4年間)				後期基本計画(4年間)			

基本計画の内容(検討案)

■基本計画の位置付け

- 新たな調布市基本構想に掲げた将来像「**ともに生き ともに創る 彩りのまち調布**」の実現に向けて、分野ごとに現状や課題を明らかにするとともに、基本的な施策を体系的に示します。
- 現行基本構想・基本計画におけるまちづくりの基本目標、施策体系等の基本的な枠組を継承します。
- 市を取り巻く社会潮流や新たな課題への対応を踏まえ、2030年代を展望した計画として、各施策分野における主要な事業の内容及び概要を示します。

◇◇計画策定の視点◇◇

困難を抱える市民に対する継続的な生活支援

新型コロナウイルス感染症などの様々な要因により、困難を抱えている市民に対して、必要な支援を行き届かせることのできる『ひとにやさしいまち』を目指す計画とします。また、「パラハートちょうふ」を標ぼうし、障害理解を中心に展開してきたこれまでの取組を発展させ、多様な主体と連携しながら、障害の有無、国籍、性別等によって分け隔てられることなく、一人一人の個性が尊重され暮らしやすいまちを目指して、『共生の充実』につなげていきます。

『ともに生き』

多様な主体が連携した参加と協働による共創のまちづくり

これまで実践を重ねてきた参加と協働のまちづくりを更に発展させ、NPO・企業・大学等の多様な主体と連携し、それぞれが持つ知見や技術、ノウハウを生かしながら、ともに考え、ともに行動し、地域課題の解決に取り組みます。

『ともに創る』

調布のまちの骨格づくりの大きな節目などへの対応

京王線の地下化を契機に南北一体の都市基盤に取り組んできた中、本基本計画期間中には、調布駅前広場及び鉄道敷地整備が最終段階を迎えるなど『調布のまちの骨格づくり』は大きな節目を迎えます。こうした取組の着実な推進と併せて、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組や、行政のデジタル化の推進、公共施設マネジメントなど、市政の重要課題への確に対処していくことで、新たな時代に花開く調布のまちづくりを進めます。

『彩りのまち調布』

行政改革と一体的な取組の推進

市政経営の基本的な考え方である「参加と協働のまちづくり」と「効果的・効率的な行財政運営」を踏まえ、質の高い市民サービスを将来にわたり持続的に提供していくため、最少の経費で最大の効果をあげるための具体的な取組を示す行革プランを分野別計画との両輪で推進します。

将来像を実現するための施策・事業の推進を支える

基本目標・分野別計画

次期基本構想では、まちの将来像「ともに生き ともに創る 彩りのまち調布」の実現に向け、8つの基本目標を掲げています。基本計画では、この基本目標に沿って、分野別の将来像の具現化に向けた施策の方向や各施策の基本的取組、主要な事業などを位置付けます。

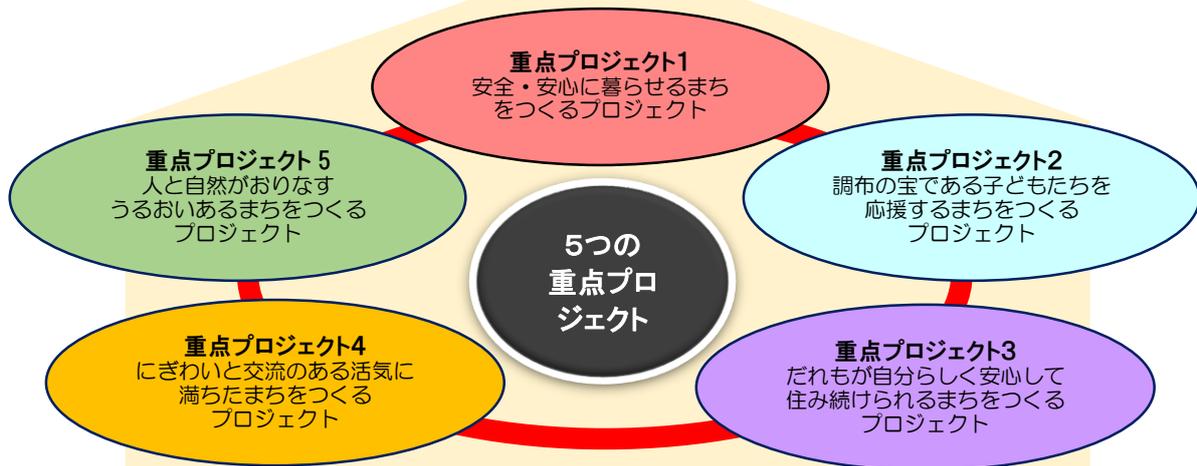
※基本計画事業(年度別計画)は調整中
<現行は97事業>

【8つの基本目標】

- ①安全に安心して住み続けられるために **防災** **防犯・消費者安全**
- ②安心して子どもを産み育てられ、将来を担う子ども・若者が力を発揮できるために **子ども・子育て支援** **学校教育** **青少年の健全育成**
- ③みんなで支え合い、いつまでも心穏やかに暮らすために **地域福祉** **高齢者福祉** **障害者福祉** **セーフティネット** **雇用・就労** **健康づくり**
- ④学びやスポーツを通じ、誰もが充実した毎日を過ごすために **生涯学習** **スポーツ**
- ⑤多様性を認め合い、安心して自分らしく暮らせるために **地域コミュニティ** **人権・男女共同参画** **平和・国際交流**
- ⑥調布ならではの魅力にあふれ、活気に満ちたまちにするために **産業** **都市農業** **観光** **芸術文化** **歴史文化**
- ⑦地域の特性を生かした快適で利便性に富むまちをつくるために **市街地の形成** **都市空間の形成** **住環境** **道路** **交通**
- ⑧豊かな自然と人が共生する、持続可能なまちをつくるために **地球環境保全** **水と緑** **ごみ減量・処理** **緑生活環境**

重点プロジェクト

分野別計画における8つの基本目標を横断的に関連付け、計画期間内に特に重点的に取り組むべき主要事業を重点プロジェクトとして位置付けます。また、重点プロジェクトを横断して対応を図る必要がある課題に対しては、組織横断的な連携を図るとともに、関連する重点プロジェクトを有機的に連動させながら、効果的・効率的に取組を展開します。



計画を推進するために(行革プラン2023)

基本構想に掲げた、まちづくりの実践に当たっての3つの基本的な姿勢を柱とする行政改革の取組を示しています。

【3つの柱】

- ①市民が主役のまちづくり
- ②市民のための市役所づくり
- ③計画的な行政の推進

【6つの方針】

- 方針1: 共創のまちづくりの実践
- 方針2: 行政のデジタル化推進
- 方針3: 効率的な組織体制の整備
- 方針4: 人材の確保・育成
- 方針5: 計画行政の推進
- 方針6: 公共資産の最適化

【個別プラン】

37プラン
<現行は41プラン>

このページからが質問・回答シートです。全部で34問あります。

設問が多く恐縮ですが、最後までご協力をお願いいたします。

＜質問・回答シート＞

それぞれの質問に対し、選択肢の中からあなたご自身のお考えに最も近い番号を選び、質問文に示されている範囲で、該当する番号に直接○をつけてください。

「あなたご自身のこと」について

問1 あなたの性別について、あてはまるものに○をつけてください。 (○は1つ)

1 男性	2 女性	3 回答しない
------	------	---------

問2 あなたの年齢（令和4年10月1日現在）について、あてはまるものに○をつけてください。

(○は1つ)

1 16～19歳	6 40～44歳	11 65～69歳
2 20～24歳	7 45～49歳	12 70～74歳
3 25～29歳	8 50～54歳	13 75歳以上
4 30～34歳	9 55～59歳	
5 35～39歳	10 60～64歳	

問3 あなたの世帯の家族構成について、あてはまるものに○をつけてください。 (○は1つ)

1 単身世帯	4 ひとり親と子どもの世帯
2 夫婦のみ世帯	5 3世代世帯（親・子・孫）
3 夫婦と子どもの世帯	6 その他（ ）

問4 あなたのお宅に同居している方について、あてはまるものに○をつけてください。

(○はいくつでも)

1 配偶者	5 高校生世代～64歳の家族・同居人
2 0歳～2歳の子ども	6 65歳～74歳の家族・同居人
3 3歳～6歳の子ども	7 75歳以上の家族・同居人
4 小・中学生の子ども	8 家族・同居人はいない

問5 あなたの職業について、あてはまるものに○をつけてください。なお、兼業の方は主な職業を1つ選んでください。 (○は1つ)

1 自営業	8 家事専業
2 農業	9 無職
3 建設業・鉱工業・製造業系の会社員	10 その他（ ）
4 「3」以外の商業・サービス業系などの会社員	
5 公務員・団体職員など	
6 派遣・契約・嘱託社員、パート・アルバイト	
7 学生	



問5で「1～7」のいずれかを選んだ方にかがいます。

問5-1 あなたの通勤（就業）・通学先について、あてはまるものに○をつけてください。

（○は1つ）

1 自宅	6 世田谷区
2 市内（自宅以外）	7 東京23区内（世田谷区以外）
3 府中市	8 神奈川県
4 三鷹市	9 関東近県（神奈川県以外）
5 多摩地域（府中市・三鷹市・島しょ以外）	10 その他

問6 あなたの現在のお住まいについて、あてはまるものに○をつけてください。（○は1つ）

1 一戸建て（持ち家）	5 公営住宅（公団，公社，都営，市営）
2 一戸建て（借家）	6 社宅・官舎
3 集合住宅（分譲）	7 シェアハウス
4 集合住宅（賃貸）	8 その他（ ）

問7 あなたがお住まいの「町名」と「丁目」それぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

（○はそれぞれ1つ）

「町名」			
《西部地域》	《北部地域》	《南部地域》	《東部地域》
1 飛田給	7 佐須町	13 小島町	20 菊野台
2 上石原	8 柴崎	14 布田	21 東つつじヶ丘
3 富士見町	9 深大寺元町	15 国領町	22 西つつじヶ丘
4 下石原	10 深大寺北町	16 調布ヶ丘	23 入間町
5 西町	11 深大寺東町	17 八雲台	24 仙川町
6 野水	12 深大寺南町	18 多摩川	25 緑ヶ丘
		19 染地	26 若葉町
「丁目」			
1 1丁目	3 3丁目	5 5丁目	7 7丁目
2 2丁目	4 4丁目	6 6丁目	8 8丁目

問8 あなたが普段利用する駅はどこですか。

（○は1つ）

1 調布駅	5 つつじヶ丘駅	9 京王多摩川駅
2 布田駅	6 仙川駅	10 京王線以外の駅
3 国領駅	7 西調布駅	（ ）駅
4 柴崎駅	8 飛田給駅	

問9 あなたは、調布市にお住まいになって、通算で何年になりますか。 (〇は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1 3年未満 | 4 10~20年未満 |
| 2 3~5年未満 | 5 20~30年未満 |
| 3 5~10年未満 | 6 30年以上 |

問10 あなたは、調布のまちに親しみや愛着を感じていますか。 (〇は1つ)

1 感じている	2 感じていない	3 どちらともいえない
---------	----------	-------------



問10で「1」を選んだ方にかがいます。

問10-1 親しみや愛着を感じる場所はどんなところですか。 (3つまで)

①	②	③
---	---	---

例) 緑や自然が多い, 映画館が近くにある, 都心へのアクセスが良い, 深大寺, 花火大会など

新たな基本計画について

◇令和5年度からの新たな基本計画では、分野別計画の中で、特に重点的に取り組むべき主要事業について、優先性を踏まえた選択と集中の観点から重点プロジェクト事業として位置付けています。

1 安全・安心に暮らせるまちをつくるプロジェクト

《目指すまちの姿》

- 自助の意識を一層高める中での共助・公助との連携，地域や関係機関及び他自治体等との災害時における連携体制の強化や，犯罪を未然に防止するための取組の推進により，防災・減災対策の強化や地域防犯力の向上が図られています。
- 災害時における緊急輸送道路の機能確保，住宅の耐震化促進，下水道施設の耐震化，内水浸水対策など，市民の暮らしに安心感をもたらすことができる都市基盤が整備されています。

問 11 上記「安全・安心に暮らせるまちをつくるプロジェクト」の《目指すまちの姿》について、どのように感じますか。 (○はひとつ)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1 重点的に取り組むべきである | 4 重点的に取り組むべきではない |
| 2 どちらかといえば重点的に取り組むべきである | 5 その他 () |
| 3 どちらかといえば重点的に取り組むべきではない | |

問 12 「安全・安心に暮らせるまち」をつくるために、どのような視点が重要だと思いますか。重要だと思うものを3つ以内で選んで○をつけてください。 (○は3つ以内)

- 1 自助・共助による地域における災害時の対応能力の向上
- 2 避難において困難を抱える市民に対する支援
- 3 デジタル技術を活用した備蓄品の管理・充実
- 4 災害時情報等の迅速・的確な提供
- 5 建築物の耐震化促進
- 6 浸水被害軽減対策の推進
- 7 地域の防犯対策の強化

【その他、「安全・安心に暮らせるまち」づくりについて、ご意見やご提案がありましたらご記入ください。】

2 調布の宝である子どもたちを応援するまちをつくるプロジェクト

《目指すまちの姿》

- 地域の中で安心して子どもを産み、育てられる環境づくりが進んでいます。
- 子ども・若者の一人一人を取り巻く状況に応じて、地域で支える環境づくりが進んでいます。
- 次代を担う子どもたちがそれぞれの個性を伸ばすとともに、学力の習得や心身の育成など、安心して学び、成長できる環境づくりが進んでいます。

問 13 上記「調布の宝である子どもたちを応援するまちをつくるプロジェクト」の《目指すまちの姿》について、どのように感じますか。 (○はひとつ)

1 重点的に取り組むべきである	4 重点的に取り組むべきではない
2 どちらかといえば重点的に取り組むべきである	5 その他 ()
3 どちらかといえば重点的に取り組むべきではない	

問 14 「調布の宝である子どもたちを応援するまち」をつくるために、どのような視点が重要だと思えますか。重要だと思うものを3つ以内で選んで○をつけてください。

(○は3つ以内)

1 妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実（相談・サービス）
2 子育て家庭における経済的負担の軽減
3 子どもの貧困対策（学習・相談支援など）
4 多様なニーズに応じた保育サービスの提供、保育の質の維持・向上
5 学童施設整備
6 児童虐待防止
7 子どもの発達支援
8 ヤングケアラーの把握・支援、困難を抱える子ども・若者への支援
9 いじめ防止対策
10 ICTを活用した学びの推進
11 学校における個に応じたきめ細かな支援
12 魅力ある学校づくり
13 安全・安心な学校施設整備の推進
【その他、「調布の宝である子どもたちを応援するまち」づくりについて、ご意見やご提案がありましたらご記入ください。】

3 だれもが自分らしく安心して住み続けられるまちをつくるプロジェクト

《目指すまちの姿》

- 高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して生きがいを持って暮らし続けることができるよう、高齢者を支える取組が進んでいます。
- 障害者が安心して地域で共に暮らし、自立した生活をおくることができるよう、障害者を支える取組が進んでいます。
- 誰もが住み慣れた地域で生活できるよう、地域共生社会の充実が図られています。
- それぞれのライフステージや状況に応じた健康づくりに関する取組の充実が図られています。

問 15 上記「だれもが自分らしく安心して住み続けられるまちをつくるプロジェクト」の《目指すまちの姿》について、どのように感じますか。 (○はひとつ)

1 重点的に取り組むべきである	4 重点的に取り組むべきではない
2 どちらかといえば重点的に取り組むべきである	5 その他 ()
3 どちらかといえば重点的に取り組むべきではない	

問 16 「だれもが自分らしく安心して住み続けられるまち」をつくるために、どのような視点が重要だと思いますか。重要だと思うものを3つ以内で選んで○をつけてください。

(○は3つ以内)

1 地域におけるトータルケアの推進
2 地域住民が主体となった地域課題解決力の強化
3 地域包括ケアネットワークの強化
4 介護予防・日常生活支援総合事業の展開
5 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施
6 障害者に対する包括的な支援の充実
7 高齢者や障害者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境整備
8 総合的ながん対策の推進
9 感染症等の健康危機管理対策の推進
10 歯と口腔の健康づくり
【その他、「だれもが自分らしく安心して住み続けられるまち」づくりについて、ご意見やご提案がありましたらご記入ください。】

4 にぎわいと交流のある活気に満ちたまちをつくるプロジェクト

《目指すまちの姿》

- 快適性と利便性を兼ね備えたにぎわいと交流のある都市空間の創出，地域の特性を活かした魅力ある市街地の形成が図られています。
- まちの回遊性を高め，歩いて楽しいまちづくりが形成されているとともに，映画やスポーツなどの地域資源を生かし，まちの活性化が図られています。

問 17 上記「にぎわいと交流のある活気に満ちたまちをつくるプロジェクト」の《目指すまちの姿》について、どのように感じますか。 (○はひとつ)

1 重点的に取り組むべきである	4 重点的に取り組むべきではない
2 どちらかといえば重点的に取り組むべきである	5 その他 ()
3 どちらかといえば重点的に取り組むべきではない	

問 18 「にぎわいと交流のある活気に満ちたまち」をつくるために、どのような視点が重要だと思えますか。重要だと思うものを3つ以内で選んで○をつけてください。

(○は3つ以内)

1 鉄道敷地及び駅前広場の整備によるにぎわいと活力，交流のある中心市街地のまちづくり
2 円滑で快適な移動の実現に向けた道路ネットワーク等の整備の促進
3 地域経済活性化の推進
4 市内事業者支援
5 「映画のまち調布」の推進
6 「水木マンガの生まれた街 調布」の推進
【その他、「にぎわいと交流のある活気に満ちたまち」づくりについて、ご意見やご提案がありましたらご記入ください。】

5 人と自然がおりなすうるおいあるまちをつくるプロジェクト

《目指すまちの姿》

- 環境保全に対する意識の一層の高まりと併せて、脱炭素や循環型社会の形成が進んでいます。
- 大切な財産である緑と水辺環境が守り育てられ、自然との共生が次代に継承されています。
- 地域固有の景観資源や、地区の特性を生かした景観まちづくりの取組が推進されています。

問 19 上記「人と自然がおりなすうるおいあるまちをつくるプロジェクト」の《目指すまちの姿》について、どのように感じますか。 (○はひとつ)

1 重点的に取り組むべきである	4 重点的に取り組むべきではない
2 どちらかといえば重点的に取り組むべきである	5 その他 ()
3 どちらかといえば重点的に取り組むべきではない	

問 20 「人と自然がおりなすうるおいあるまち」をつくるために、どのような視点が重要だと思えますか。重要だと思うものを3つ以内で選んで○をつけてください。

(○は3つ以内)

1 ゼロカーボンシティ宣言に基づく脱炭素社会の実現に向けた総合的な取組の推進
2 環境と調和した持続可能な社会を構築するための活動支援と担い手づくり
3 公園・緑地・崖線樹林地の保全
4 公園・緑地等の整備
5 深大寺・佐須地域の里山や水辺環境の保全・活用
6 都市農地の保全・活用
【その他、「人と自然がおりなすうるおいあるまち」づくりについて、ご意見やご提案がありましたらご記入ください。】

○脱炭素社会実現の視点

市民・事業者・市が連携・協働し、温室効果ガスの削減と気候変動による被害の回避・軽減を図ります。市民一人一人が地球温暖化及び気候変動の問題に対する危機感を持ち、行動を変える“かしこい選択”を積み重ね、未来の脱炭素社会の実現に貢献していくことを目指します。

問 23 あなたは、脱炭素社会実現の視点について、どのような取組が重要だと思いますか。

重要だと思うものを3つ以内で選んで○をつけてください。 (○は3つまで)

- 1 公共施設における再生可能エネルギーの利用
- 2 電気自動車の導入促進
- 3 シェアサイクルの普及促進
- 4 省エネルギー住宅の促進
- 5 暑熱対策の推進
- 6 ごみの減量のための取組
- 7 市内の緑を増やす取組
- 8 その他 ()

○フェーズフリーの視点

フェーズフリーとは、平常時や災害時などのフェーズ（社会の状態）を区別せずに、その両方での価値を高め、施策目標の達成と災害対策の充実の両面の実現を目指すもので「いつも使いのモノやサービス“が“もしもの災害時”にも役立つ」といった考え方です。

基本計画に位置付けを図る中で、ハード面でのフェーズフリーの考え方の活用に加え、教育や子育て、福祉や環境、地域コミュニティ等におけるソフト面でも活用を図ることで、各施策と災害対策両面での取組推進と成果向上を目指していきます。

問 24 あなたは、「フェーズフリー」という考え方を知っていますか。 (○は1つ)

- 1 知っている
- 2 知らない

問 25 あなたは、どのような場面でフェーズフリーの考え方を活用することが重要だと思いますか。重要だと思うものを3つ以内で選んで○をつけてください。 (○は3つまで)

- 1 子育て家庭支援、子ども・若者支援、健診等の各種健康施策における活用
- 2 保育園や学童クラブ、児童館における遊びやイベント等での活用
- 3 学校教育、社会教育分野での学習及び体験活動における活用
- 4 観光・商業、農業、スポーツ、生涯学習、文化芸術の各種イベント・催しでの活用
- 5 自治会・地区協議会などのコミュニティ活動支援等での活用
- 6 地域福祉・高齢福祉・障害福祉など福祉分野における活動等での活用
- 7 公園・緑地等の整備における活用
- 8 グリーンホールや文化会館づくり、市庁舎等の調布駅周辺大型公共施設等での整備における活用
- 9 総合福祉センターなど福祉施設の整備等での活用
- 10 その他 ()

「市政への満足度」、「日ごろの意識や行動」について

【 青少年の健全育成について 】

問 26 あなたは、ひきこもりや無業、生活上の悩みなど、社会生活を営むうえで困難を抱える子ども・若者への施策や支援に満足していますか。 (〇は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 満足している | 3 どちらかといえば不満である |
| 2 どちらかといえば満足している | 4 不満である |

【 地域コミュニティについて 】

問 27 あなたは、地域のコミュニティ活動※を目にする機会がありますか。

(〇は1つ)

- | | |
|--------|---------|
| 1 よくある | 3 あまりない |
| 2 ある | 4 ない |

※趣味のサークルや環境美化などのボランティア活動、また、自治会や地区協議会等が行う防災訓練など、住民同士のつながりによる地域活動

【 生涯学習について 】

問 28 あなたは、この1年間の中に、生涯学習※に取り組みましたか。

(〇は1つ)

- | | |
|---------------|------------|
| 1 月1回以上取り組んだ | 3 年1回取り組んだ |
| 2 年に数回程度取り組んだ | 4 取り組まなかった |

※生涯学習とは、人々が自発的意思に基づいて、生涯を通じて行う学習のことで、学校や社会教育施設のほか、家庭・職場・地域などで行われる学習や、文化・スポーツ・レクリエーション・ボランティア・趣味など生活のあらゆる場面でされる学習が含まれます。

問 29 あなたは、生涯学習に関する情報を何から入手していますか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 市報ちょうふ | 5 市生涯学習情報コーナー（まちづくり推進員） |
| 2 市ホームページ | 6 その他（ ） |
| 3 市公式 SNS（LINE, Twitter 等） | 7 得る手段が分からない |
| 4 友人・知人の紹介 | |

【 平和について 】

問 30 あなたは、最近1年の間に、身近な人と戦争や平和について話し合ったり、戦争中の話を聞いたりしたことがありますか。 (〇は1つ)

1 ある	2 ない
------	------



問 30 で「1」を選んだ方にうかがいます。

問 30-1 それはどんな時ですか。(〇はいくつでも)

- 1 日常の会話の中で
- 2 ニュースや報道を見聞きしたとき
- 3 勉強会や学習活動の中で
- 4 市の平和祈念事業（展示や講演等）に参加したとき
- 5 その他（ ）

問 30-2 それは誰と話し合ったり、誰から聞いたりしましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 家族・親族 | 4 サークルや市民団体などのグループ |
| 2 友人・知人 | 5 その他（ ） |
| 3 市の平和祈念事業（展示や講演等） | |

【観光について】

問 31 あなたは、調布市が、名誉市民・水木しげる氏が50年以上暮らし、「ゲゲゲの鬼太郎」や「悪魔くん」など、数々の作品を生み出した「水木マンガの生まれた街」であることを知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	2 知らない
---------	--------

【 防犯について 】

問 32 あなたは（御家族を含む）、特殊詐欺被害等防止のためにどのような対策をしていますか。(〇はいくつでも)

1 在宅時でも留守番電話に設定している
2 知らない番号からの電話には出ず、留守番電話を聞いてから折り返すようにしている
3 自動通話録音機を設置している
4 非通知電話拒否の設定をしている
5 不審な電話を受けたら必ず家族、警察などに相談している
6 ATMを利用するときは、携帯電話を使用しない
7 家族間で合言葉を決めるなど、詐欺対策について話し合っている
8 情報ツール（調布市防災・安全情報メールやデジポリス等）から情報を入手している
9 その他（ ）
10 対策はしていない

【 歯と口腔の健康づくりについて 】

問 33 あなたは、定期的に歯科検診を受けていますか。

(○は1つ)

1 受けている

2 受けていない

【 環境保全に向けた取組について 】

問 34 あなたは、環境を守るためにどのような取組を行っていますか。

(○はいくつでも)

1 マイバッグ・マイボトルなど、繰り返し使ってごみの削減に寄与する商品を利用している

2 エコマークなどがついた環境に配慮した商品・サービスを選んでいる

3 使い捨てのプラスチック製品（ストローやスプーンなど）はなるべく使わない

4 ごみを分別し、資源のリサイクルを心がけている

5 食品・飲料を使い切り、食品ロスの予防を心がけている

6 ゆっくり加速・減速などのエコドライブを実践している

7 走行時に二酸化炭素を排出しない自動車（電気自動車やプラグインハイブリット自動車など）を利用している

8 こまめに消灯したり、エアコンの設定温度に注意したりするなど、節電を心がけている

9 家の照明をLEDに交換している

10 太陽光発電システムなど再生可能エネルギーを利用する機器を導入している

11 買い替えの際に、省エネルギー型の製品を選ぶように心がけている

12 家庭エコ診断、うちエコ診断 WEB サービスなどを活用し、省エネ専門家の意見を聞いたことある

13 その他（ ）

14 特に取り組んでいない

質問は以上で終わりです。

最後までご協力いただき、誠にありがとうございました。

返送期限

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ

令和4年12月28日(水)まで に郵便ポストへ投函してください。

なお、調査票や返信用封筒にお名前・ご住所などの記入は必要ありません。

調査結果の公表について

ご協力いただいた調査の結果については、『調布市基本構想策定に関する市民アンケート調査報告書』（令和5年春発行予定）により公表します。

公表された報告書については、行政経営部（市役所5階）、公文書資料室（市役所4階）、各図書館、各地域福祉センター及び市のホームページ等でご覧になれます。

登録番号
(刊行物番号)

2022-284

調布市基本計画策定に関する市民アンケート調査報告書

発行日 令和5年 3月

発行 調布市

編集 行政経営部企画経営課

〒182-8511 調布市小島町 2-35-1

電話 042-481-7368～9 (直通)

FAX 042-485-0741